

総合的な学習の時間 “その道のプロ”へのインタビュー①

インタビュアー：みなさん、こんにちは。“その道のプロ”へのインタビュー。第1回目は、養護教諭です。

こんにちは。

本日は、お忙しい中、中学生のために時間をとってくださり、ありがとうございます。
まずは、養護教諭の仕事内容について教えてください。

養護教諭：わかりやすく一言で言うと、「児童生徒や教職員が健康に学校生活を送るための様々なことをする仕事」です。

具体的に言うと、健康観察・救急処置・学校環境衛生・健康診断・感染症の予防・健康相談・保健教育・管理疾患児童生徒の把握・学校行事での健康管理・学校医やスクールカウンセラーとの連携・・・などなどです。

インタビュアー：ありがとうございます。

今、紹介してくださった仕事の中で、特に、中学生がイメージしにくいだろうと思われるもの、知らないだろうと思われるものについて、詳しい説明をお願いします。

養護教諭：『学校環境衛生』というのは、わかりにくいかもしれません。学校が衛生的でなければ、健康的な学校生活は送れません。例えば、「水道から出る水が飲んでも大丈夫か」、毎朝水質を検査して大丈夫なことを確かめています。「トイレの床に大便がついたままになっている」と、そこから感染性胃腸炎などの病気が流行してしまう可能性があるため、毎日点検してなるべく早く清潔な状態に戻すようにしています。

また、『管理疾患児童生徒の把握』というのも、とくに持病のない人はわからないと思います。学校では、心臓の病気・腎臓の病気・脊柱側弯症・食物アレルギーの児童生徒については、活動によって命にかかわることが考えられるので、しっかり先生方がわかっている必要があります。定期的に病院から医師の指示を聞いてもらったり、学校生活で注意しなければならないことを教頭先生や担任の先生と一緒に親と面談したりして、病気があっても安心して学校生活を送れるようにしています。

インタビュアー：ありがとうございました。では次に、この仕事を目指したきっかけを教えてください。

養護教諭：中学生の時に、重度の貧血で定期的に通院していました。医師も看護師さんも薬剤師さんも検査技師さんも、みなさん親身になって声かけしてくれて、自分も医療系の仕事をしたいと漠然と思っていました。

また、私が中学生の頃はヤンキーと呼ばれるような子が同級生にたくさんいたのですが、見かけが怖そうな人たちに「話を聞いて」と言われ相談にのることが多くありました。色々な悩みを抱えていることも知ったし、話しやすいと言われてうれしかった経験でした。

大学を受験する頃に、新聞で「保健室登校」という言葉をよく目にするようになり、色々な悩みを持つ中学生の話聞いて、少しでも気持ちが楽になってくれたらと考えはじめました。保健室も医療系っぽいし、話を聞いてあげることもできそう・・・養護教諭だ！と、中学時代の経験と自分のやりたいことがつながり、養護教諭を目指すことになりました。

インタビュー：ありがとうございました。この仕事に就くには、どんな資格が必要ですか？

養護教諭：養護教諭1種免許（大学卒）または養護教諭専修免許（大学院卒）が必要です。

インタビュー：ありがとうございます。

では、この仕事のやりがい・やって良かったと思うことと、苦勞・つらい時のことを教えてください。

養護教諭：保健室には、ほとんどの生徒が体や心の元気がない状態で来ますが、休んだり、話をしたりすることで、元気になって教室に戻って行く姿を見ると嬉しいです。

相談に来たい生徒がとても多かった学校では、1時間ずつ別の生徒と1日中相談が続くことが毎日で、教育委員会に提出しなければならない書類を作る時間がなく、切に間に合わなくなってしまった時はつらかったです。

インタビュー：ありがとうございました。

最後に、中学生へのメッセージ・未来へのエールをお願いします。

養護教諭：中学生時代の経験が将来に活かされることも多いです。なので、ぜひたくさんのご経験をしてほしいです。

また、自分は何が好きなのか、何をやっていると楽しいのか、そのことを将来の仕事にすることが理想なのかなと思います。勉強も大切ですが、「自分の好きなこと探し」も大切にしてほしいです。

インタビュー：本日は、お忙しい中、中学生のために時間をとってくださり、ありがとうございました。

生徒のみなさん、今回の感想を、学習・生活記録に書いておきましょう。

これで、第1回“その道のプロ” 養護教諭へのインタビューを終わります。